

石綿セメント管布設替えの進捗状況は

下水道計画に合わせて

問

水道管が老朽化し漏水が発生したり、管の破裂による断水や急な工事などが年に数回発生しています。23年度までに、いまだ残る石綿セメント管の布設替え事業を行う予定となっておりますが、漏水調査や布設替えの進捗状況は。また、皿山歴史資料館付近の一部地域に送っている水については、中継タンクを通していますが、水質の検査・タンクの清掃等は行われているのですか。



水道管改良工事

石綿管の布設替えの状況は、平成7年度に調査し、総延長が22・1kmありましたが、平成23年度末では残り4・8kmとなる予定です。進捗率は78%になります。残っている箇所につきましては、新原地区の筑紫野、古賀線の県道、須恵地区の火焼水路沿いの農道、南米里の公民館横の交差点から一の瀬までの区間に埋設されており、今後の下水道計画に合わせて整備、布設替えを行います。皿山配水池の水質、清掃の件は、配水池を設けている施設の水質検査は実施しております、清掃は5年周期で実施しています。

今後は定期的な水質検査を行い、水質検査の結果や目視による点検で、清掃時期を決定したいと考えており、水質監視を徹底します。



今村 桂子 議員

答 今泉上下水道課長 漏水の調査について、年間の調査は下水道未整備地域を対象に実施し、年間約30ヶ所の漏水を発見し修理しています。

町有地の有効活用を

関係部署と協議しながら

問

経済の低迷に伴い、取り崩しを余儀なくされていた町の基金は、執行部および町民一人一人の鋭意努力により、軌道修正がされ、事なきを得たところですが、補助金等を含む町民サービスは低下し、これからの向上が課題になっています。

答 吉松まちづくり課長 ところで、この対策の一部として、町有地の売却処分が考えられます。町内に点在する、特に利用価値の薄い物件を民間の手借りて、安価で売却することにより、資金の調達と増税につながると思われるが、どう思いますか。

町有地の処分は、町有財産管理委員会、売却の有無・価格・諸条件を審議し実施しています。



合屋 伸好 議員



売却される「町営住宅跡地」

処分の対象となるのは、町が積極的に公募し、一般競争入札を実施する場合と、本人申し出による場合があります。価格は、土地の評価額・現況地目・近隣の売買事例・その他諸条件を総合的に判断し決定されます。利用価値の薄い物件についても、委員会内部で定めています。

基準に対して、極端に安価にすることは出来ません。処分可能な町有地は数ヶ所ありますので、関係部署と慎重に協議しながら、今後向きに売却を進めていきたいと考えています。町営住宅跡地については、近日中に入札をする予定です。